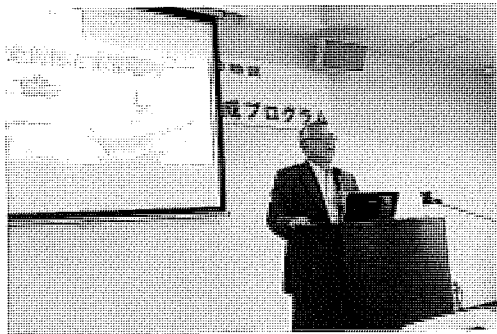


安全保障と危機管理



講師 越野 修三氏

(岩手大学地域防災研究センター 客員教授)

皆さんこんにちは。今先程ご紹介いただきました岩手大学客員教授の越野です。今年の3月に岩手大学の方を定年退職しまして、今は岩手大学の客員教授、それから岩手医科大の顧問とか、岩手県のあれこれといろんなことをやっています。

今日は「安全保障と危機管理」という堅苦しいテーマなんですけど、私の自己紹介をちょっと聞いて頂くとなぜこういうテーマを話しているかというのが分かると思います。私の出身は弘前なんですけど、生まれたところはもっと田舎で、多分みんな知ってるかな中泊町の小泊という所が私の出身なんです。

高校がRYLA委員長の高瀬君と同じ五所川原高校出身で、防衛大学に行きまして、最初陸上自衛隊に入りました。陸上自衛隊では、全国歩き回って、広島で13師団の作戦部長をしている時、阪神淡路大震災に会いました。そこで神戸市で40日間くらい救援活動をして、自衛隊を退職しました。

今度は岩手県の県庁に入り、そこで防災危機管理監という役職で勤務していました。そこで防災危機管理監というのをやっていた時に、東日本大震災、これに遭遇したわけです。その時に対策本部というのを作り、そこで指揮・統括をしていました。本当はその年の3月31日に退職する予定だったんですけど、また延長になりまして2年間延長して岩手県にいました。そこが終わっていいよ今度、弘前に帰れるかなと思ったら、岩手大学の方に来てくれということになって岩手大学で教授をやっていました。やっとこの3月に定年になりまして、こちらの弘前に帰ってきました。ところが、仕事のほうが岩手県のほうが結構ありまして、それで単身赴任で私のワイフを弘前に置いて、単身で盛岡に行きました。

そんなわけで、自衛隊、それから県庁、それから大学の教授ということで、いろんな事をやってきました。その間に、自衛隊の時に特に安全保障ということ、防衛省を通してやっておりました。県庁にいたときは3・11東日本大震災ということも研究しましたし、自衛隊の時も阪神淡路大震災の研究をしました。そういうことで、危機管理というテーマが、私の専門と言えば専門でもあります。ということで、今日はちょっと堅苦しい話になるかもしれませんが「安全保障と危機管理」というテーマのお話です。みなさん安全保障とかですね危機管理という言葉は何度も聞くとお思います。それじゃあ、いったいなんなのそれって、調べたことがありますか？ないと思いますが、若い時は誰も興味持たないのがだいたい普通です。そんなことで、ちょっと今日話を聞いて、興味を持ってくれたらなということです。

それでは、安全保障と危機管理ってどうちがうのか。それでは、ここは川です。川を断面

にしたやつですね。今、水がここにあるんですが、水が溢れ出すと洪水になって損害を与えます。だから、水はある意味驚異というふうに感じてください。

皆さん、もし、川の水位がこれぐらい上がったらどうですか。驚異を感じますか？驚異を感じる人？ 感じないって人？ ところが、ここまで安全と見るか危険と見るかというところ、ほとんど安全と見るよね。ところがこの上まできたらどうですか。ここまできたら危険だと思う人？ まだ大丈夫だと思う人？

でもこのままでは、洪水になる蓋然性、可能性が非常に高い。こういうのを危機と言います。それでこういう状態になったら水位を低くするか、あるいはまた増えたら、損害が出ないようにここに土嚢積んだりなんかして被害を限定するようにする。そういう対策を取ります。そういうのを「危機管理」と言います。

それでは今度は、水位をこの辺とします。ほとんど脅威感じないですね。なんでだと思えますか。洪水になる蓋然性いわゆる可能性というのはきわめて低く安全です。こういう状態を保っておく必要がある。これを「安全保障」と言います。わかりますか。

要するに安全保障と危機管理の違いっていうのは、「安全保障」というのが能動的で原因療法的、要するにその脅威っていうか危険になる原因を取り除こう前もって予防しようということ。皆さん病気と一緒に、例えば肥満にならないようにダイエットしましょうみたいなそういう感じです。「危機管理」はどちらかという対照療法で、「ああ太っちゃった、じゃあスポーツジムへ行って体重減らそう。」っていうのが「危機管理」です。

もっと詳しくやってみましょうか。それでは我が国の安全保障ということについてちょっと。これは公式に日本が出してる見解です。私の個人的な見解もちょっと入ってますが、だいたい公式の見解ですので紹介しましょう。

安全保障の定義っていうのはいろいろ有ります。これは、定まったものは有りません。ウィキペディアにはこういうふう書いてありますね。安全保障とは、ある集団主体にとっての生存や独立、財産などかけがえのないなんらかの価値（要するにいろんな価値、その時や個人によっても違います）、その価値を驚異にさらされないようになんらかの手段によって守ることを主に指すが、その概念も非常に多様である。

要するに、最初の頃の歴史的伝統的には軍事的な脅威に対するものが主であるから、昔は、ある国の安全保障といったら軍事的な脅威からそれを取り除いたり予防する、取り除いて自分の身を守るというのが安全保障だった。ところが最近、アメリカとソ連が冷戦をやった後は、大量破壊兵器の拡散、いわゆる核の拡散、ミサイルとか弾道ミサイルとかそういうものの拡散、それから平和活動で発展的には経済エネルギー資源とか、そういうものに研究を拡大してきてる。

今では環境問題とか、人権あるいは人間の安全保障、こういう言葉がでてきています。現代における国家間の主要な安全保障は、軍事力の様相に基づきながらも、外交経済環境、あるいは個人のいろんな広範囲に向かって、この安全保障というものが言われているということです。

日本の安全保障はどうか。これは去年の12月に国家安全保障宣言というのを国が出しまし

た。12月17日に。皆さん、おそらくほとんど読んだことないと思います。我が国日本がかかわる基本理念とはなにかっていうと豊かな文化と伝統、それから自由民主主義、基本的人権の尊重、法の支配。これを普遍的価値といいます。

それから国防の基本方針というのも専守防衛、軍事大国にならない、非核三原則こういう基本方針をさぐる。あと我が国の安全、アジア太平洋地域の平和と安定を実現しよう。これは日米同盟関係と各国と協力関係を深めていってこういうことをやりましょうということ。それから国際社会の安定と繁栄を実現しよう。それに寄与しようということです。

それと、平和で安定して繁栄する国際社会を構築をする。さっきも言いましたように国際社会が安定するということは、経済的にも繁栄を目指す日本にとっては非常にかかせないことです。貿易が、自由貿易で成り立っている国なので、国際環境が不安定化すると貿易もなかなか出来なくなります。だからグローバルな安全保障環境を改善しようということに積極的に関わってこうというのが、国家安全保障の目標です。

日本ではそういうことを目指してるんだけど、世界はどうなっているんだろうか。要するにグローバルな安全保障環境、国の国益を追求する安全保障の目標を達成するためには世界の環境がどうなっているかということ、パワーバランスの変化、技術革新の急速な進展。これは、ソ連が崩壊するまではソ連とアメリカの冷戦って言ってました。二大国の核バランスってあったけど、ソ連というパワーとアメリカのパワー。ソ連崩壊後は新興国、例えば中国とかインドとかそういうところのパワーが非常に大きくなって、それと非国家ようするに国でないところの軍事力とかそういうのを無視出来なくなった。パワーバランスが変わってきた。

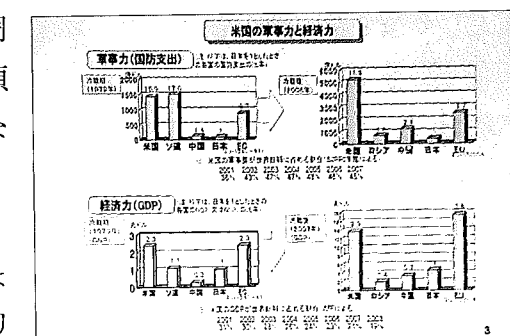
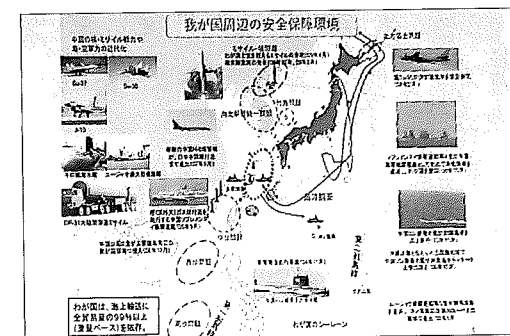
その中でアジアはどうか。アジアというか、我が国周辺的安全保障環境はどうだろうか。日本の北からいくと北方領土問題があります。ロシアとの北方領土問題、それから北朝鮮のミサイル核の問題、南北統一問題。それから韓国と竹島の問題。ロシアとは互いに領空侵犯を犯したりして結構多いです。あとは中国とは尖閣列島の問題だとか、ここの海洋調査で日本の排他的経済水域を何回も通ったりする。あと中国と台湾の問題。それから西沙諸島の問題、南沙諸島の問題。こういうふうに、我が国の周辺を見ただけでもこういった安全保障上の懸案事項というか、ひょっとしたら危機に発展するんじゃないかというようなことがあります。

あと軍事力についてもちょっと学んでみましょう。これ冷戦の時の軍事力です。冷戦の時のアメリカ

国家安全保障の基本理念

我が国が掲げる基本理念

- ①普遍的価値⇒豊かな文化と伝統、自由、民主主義、基本的人権の尊重、法の支配
経済大国⇒国際経済システムの恩恵
海洋国家⇒開かれた安定した海洋
- ②国防の基本方針⇒専守防衛、軍事大国にはならない、非核三原則
- ③我が国の安全、アジア太平洋地域の平和と安定を実現
⇒日米同盟関係、各国との協力関係強化
⇒国際社会の安定と繁栄の実現に寄与（人間の安全保障の理念）
⇒途上国の経済開発、地球規模課題解決への取り組み
- ④国際社会の取り組みを主導
⇒国際平和協力活動、核軍縮・不拡散への積極的取り組み
- ⑤我が国の安全、アジア太平洋地域の平和と安定及び繁栄の促進に積極的に寄与
⇒国際政治経済の主要プレーヤー、国際協調主義に基づく積極平和主義



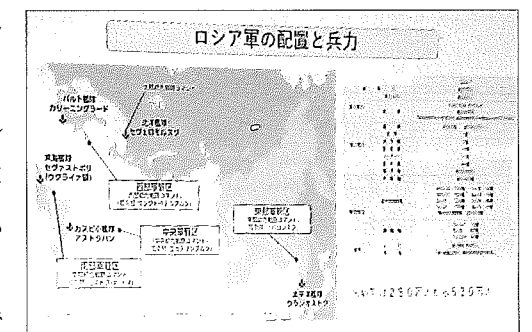
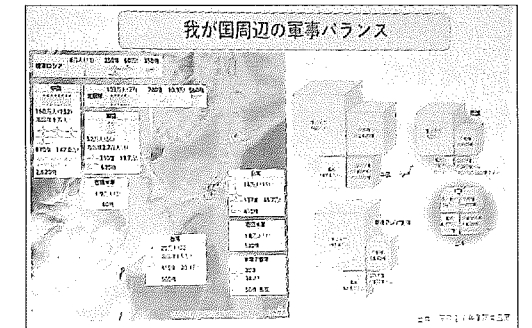
かとソ連、これの軍事力ようするに国防支出っていうのはだいたい同じくらいだった。ところがこの時、ソ連の経済力は、アメリカの半分以下だったんです。それでアメリカよりもっと大きな軍事力を保持をしていた。そうするとどうなりますか。かなり無理してるためゴルバチョフの時にソ連は崩壊をした。現在はどうなってるかということ、ソ連は軍事力が十分の一になった。そうしないと経済的に国が成り立っていかないから。経済もだいたい低迷しています。

冷戦後に増えてきたのが中国。日本を1とすると3倍くらい。これは国防費の比較でこうなっている。実際中国がどれだけ増えたかということ、冷戦後から20年間で19倍にも増えた。これみても分かります。日本と変わらない。ただ、中国の場合は国防費っていうのは公表してる数値の2ないし3倍くらいじゃないかっていわれています。それはなぜかっていうと国防費に反映されてない項目っていうのがあるんです。海外から兵器調達。例えばソ連から買ったものとか。それから準軍隊にかかる支出だとか。それからミサイルとか。そういうふうに支出したのは入ってない。それで大体3倍くらいだろうというふうに言われている。

公表されている我が国所有の軍事力のバランスです。これ防衛白書にかかれてるやつなんですけどね。この見方は、だいたいおおまかに日本を1とした時、陸上兵力、作戦機それから艦船それから防衛関係者。これを1としたときに、他の国はどうなのか。これは韓国です。韓国は陸上兵力が62万人。他が14万人しかいませんからね。中国は陸上兵力が160万人。東南アジア全部合わせるとだいたい中国と同じくらい。だから、我が国周辺を見たら中国の軍事力っていうのは、群を抜いてるという感じです。

今、その中国についてちょっとやりましょう。中国の国家戦略、これがどのように変わってきたか。1949年に毛沢東が中華人民共和国、これを建国しました。これは、共産主義革命をアジアに広げようということです。侵略戦争による領土拡大を図った。どのぐらいの戦争をやってるかということ、チベットと新疆ウイグル、これはもう併合しました。それから朝鮮半島。これは北朝鮮と韓国とが朝鮮戦争をやった1952年に、その時に中国が参戦した。それからインドでの紛争。それからソ連とも国境の紛争をやってます。それからベトナムへの戦争。だから毛沢東の時、アジアでもっとも戦争した国が中国なんです。それで、手に入れたのはチベットと新疆ウイグルだったんです。

毛沢東が亡くなって、鄧小平が国家主席。何回も戦争をしたけどやっぱり国力がないお金がない、国の経済がそんなによくはないからということで、まず国力を増強しようということの方針を転換しました。領土拡張戦略をやめて経済成長をうたって国力増強戦略をはかった。これが鄧小平さん。1997年ぐらいになると世界第2位の経済大国、アジアの軍事大国、毎年10%以上の軍事力を拡大して、アジアでも最大の軍事大国。



江沢民さんと胡錦涛さんの時代にも、「基本的に国力を増強しよう。」そういう戦略を踏襲した。ところが今度は2012年に今の習近平さんが何て言ったかっていうと「民族の偉大なる復興」ということをスローガンに掲げてやってるわけです。これはどういうことかっていうと中国というのはアヘン戦争のころから、いろんな国からひどい目にあってきた。習近平さんはアヘン戦争の前に戻ろう、ようするに唐の時代とか明の時代とか宋の時代、ああいう中華帝国に戻ろう。周辺各国を属国化しよう。それはいわゆる民族の偉大なる復興というのそういうことです。

今何をやってるかという一つは経済的、政治的な影響力を強化しよう、というのがある。経済力、特に影響力を強化しようということで、アジアインフラ投資銀行というのをやりました。ヨーロッパあたりの何か国かも参加してますけど、こういうことで経済力的な影響を強めてる。それから政治的軍事的支配の増大を図るために何をやってるかという、東シナ海の軍事拠点化というのをやってる。強大な軍事力と経済力の背景で中華帝国の建設を目指すというのが今の習近平さんの国家戦略ということなんです。

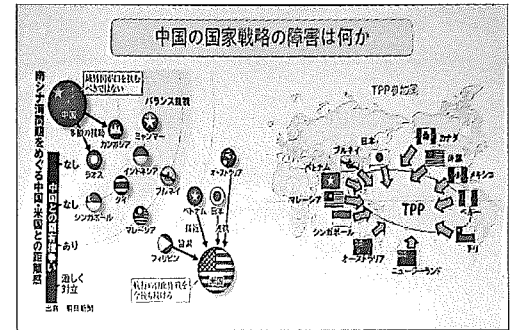
中国の南シナ海における進出なんですけども、どういふふうにしたかっていうと、1950年フランス軍がベトナムを撤退しました。するとこの1950年代に、西沙諸島というベトナムの沖の諸島があるんですけど、この半分を占領した。南ベトナムでベトナム戦争があって、南ベトナムから米軍が撤退した。そしたら西沙諸島全部を占領した。1980年の半ばになると、ソ連軍がベトナムに港を借りてたんですが、それをソ連が引き上げたら今度は南沙諸島に進出してきた。1988年に南沙諸島の6か所を攻め落とした。



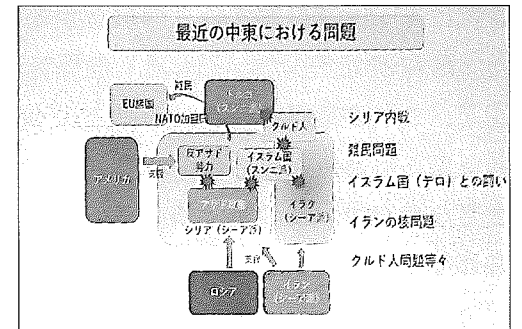
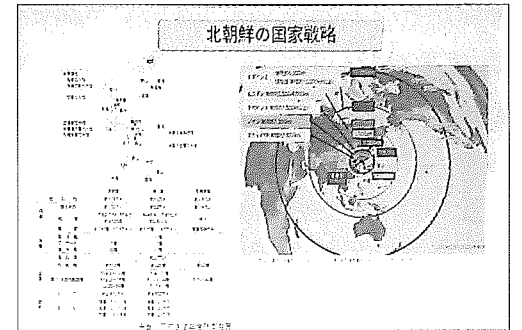
1992年になるとフィリピンに米軍が駐留してたんですが、そこから米軍が撤退したら、今度どうしたかっていうと、1995年にミスターフ礁という、ここを占領。2000年に入ってくると東シナ海南部進出。それからスカボロー礁とかこれを事実上支配している。2014年から南沙諸島ここで大規模な埋め立て工事をやり始めた。これがそうなんです。この地域はベトナムと領有権を争っている。このスカボロー礁というのはフィリピンと領有権を争っている。この南沙諸島っていうのは、いろんな国が絡んでるんです。領有権を主張してる。ベトナム、フィリピンそれからマレーシア、ブルネイとかこういうところがある。こういうふうな拠点化してる。中国は糾弾戦略という、ここまでは昔からうちも占領してたっていうようなこと言ってる。はっきりした根拠がないんですが、いわゆる今いったように、このプレゼンスがなくなると既成事実化してきている。

中国の国家戦略、いわゆる東シナ海を自分のものにしようというときの障害は何かという、やっぱりアメリカなんです。この東シナ海問題をめぐって、中国とアメリカが、他の周辺の国々とどういふような関係かという、カンボジアとラオスっていうのはものすごく中国から援助を受けてますから、領有権も特にありませんからウエルカムと、中国の言うとおりになっている。中国と領有権争いがなければけどバランスをとっているのがミャンマー、インドネシア、タイ、シンガポールこういうところですね。それから領有権争いあるところは、

マレーシアとブルネイ。だけど様子見してる。ようするに中国からの経済支援というのはこの国も欲しいわけです。自分のとこがまだ経済基盤が弱いから。激しく対立しているのがフィリピンとベトナム。あと日本、オーストラリア。だからこれらの国を、アメリカもそうだけど日本も、こっちにこいというせめぎ合いをやってるわけですね。どちらを味方につけるかというのがこれからの戦略です。



最近の中東における問題。複雑です。中東問題をちゃんと説明できる人いますか。非常に複雑。中東問題というと、シリアの内戦。それと難民問題です。難民がヨーロッパにどんどんいく。200万人以上。それからイスラム国テロとの戦いもある。それからイランの核問題。クルド人の問題もある。こういった問題がまだまだいっぱいあるんだけど、それで中東における相関図じゃないけど、どこどこが仲良くてどうなってんだということもわからない。ちょっと説明します。まずカダフィ大佐を含む「アラブの春」がやって、シリアもね「アラブの春」じゃないけどアサド政権、独裁的な政権もったアサド政権に反対する反アサド政権、これと紛争があった。反アサドを支援したのがアメリカだった。それからアサド政権を支援したのがロシアそれからイラン。イスラム国っていうのがシリアとイラクにまたがって占領していくんですが、アサド政権と反目してるのもイスラム国。それからイラクとも。クルド人とも。このクルド人っていうのはイラク、シリア、トルコここにまたがって国をもたない民族なんです。トルコにとってみてもクルド人の存在っていうのは非常に目障りなわけです。排斥をしてくれ。だからこことこことも戦争をやってるわけ。宗教的なこともあるんです。このアサド政権アサド、シリアのシーア派。イラクのシーア派です。このアラブ諸国全体で見るとシーア派よりもスンニ派の方が多いです。宗教的にはイスラム国ってのはスンニ派です。だからシーア派であるアサド政権とは敵対してる。クルド人は宗教的にそんなに関係ないですけど、イスラム国は俺の住むところを侵すなということで敵対してる。トルコ人はスンニ派なんですけど、このイスラム国から石油を買ったりして表に出ないけどバックアップしてる。ところがこのトルコっていうのは、NATOの加盟国。アメリカから盛んに何やってるんだというところがあって、敵の敵は味方だったり敵の敵は敵とかいろんなケースがいっぱいあるんです。複雑で何やってるのかわからないところがあ



る。これは宗教的なこと、それから昔からのしがらみ、そういうのがあります。こういうのが中東における問題なんです。

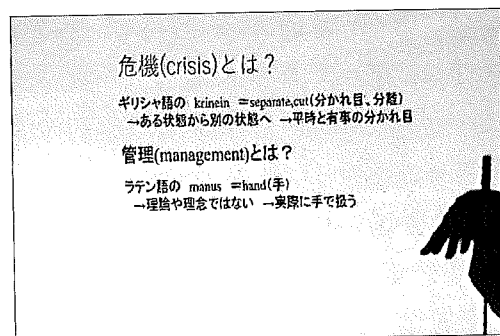
危機管理についてちょっと話します。そもそも危機を管理することって出来るのかという疑問があります。危機って突然やってきます。それをマネジメントすることって出来ますか。危機ってというのは予知とかコントロールすることは出来ないけど起きたことに対してどれだけ迅速あるいは的確に対応が可能かということ。ようするに理論や概念じゃなくて、実際手で行動でやらなきゃいけないんだというようなことで「クライシスマネジメント」。だから危機管理というのは、起こった危機を敢然と対応し損害を最小限にする努力のことであり、そのための準備をすることというのが危機管理・クライシスマネジメント。ここも最大限努力するってことはそのための準備が大事です。起こった災害に対応するということだからです。そういう出来るように準備することが重要。

クライシスマネジメントってというのは、本来は軍事戦略研究から出た言葉なんです。冷戦時代にキューバ危機というのがありました。その頃からこの危機管理という言葉が出てきた。研究がでてきた。そもそも危機管理ってというのは組織の存亡だとか人間の生死に関わる問題、これが危機管理ということでやっています。じゃ、「リスクマネジメント」というのを聞いたことあると思います。これは何から出たかっていうと、経営学の分野から出発した考え方なんです。この経営学ってというのは、17世紀末にロンドンで海上保険から端を発したとされていますけど、本格的な研究は1920年頃にドイツにおいてインフレから企業を守るためにという目的で始まったのがリスクマネジメント。これはどっちかっていうと、企業の危機回避対策、あるいは利害得失の問題。だから考え方は一緒なんです。ただ、どういうことを対象に始まってきたか。どちらかというところクライシスマネジメントは、起こったことに対してどうするか、リスクマネジメントはどっちかっていうと予防の要素が非常に強い、こういう違いもちょっとあります。

危機管理の段階をちょっと説明しますと、危機管理っていうところの事前対応とする段階それから、危機が起きてそれに応急対応をする段階、それからあと事後対応というのは復旧、復興こういう段階がある3段階あるんです。

この中で特に大事なのが、事前対応。この事前対応がうまくいかないと応急対応ってのが出来ない。準備がうまくいってないと対応がなかなか難しい。この対応がうまくいかないと、復旧、復興も非常に遅れる、だからいかに準備をしているかにかかってくる。だから危機管理も安全保障も事前対応で決まるっていつでも過言ではない。

私が、自衛隊にいたころに阪神淡路大震災にいました。その時に正直言って当時の兵庫県は対応があまりうまくいきませんでした。非常にまずかった。それはなぜか。僕らが後備に入ろうとしたけど活動拠点（自衛隊の場合はどこかに天幕を天幕っていうか活動するため

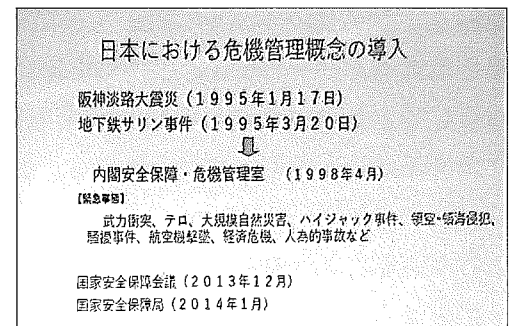


拠点っていうかエリアを作ってそこから救援活動をするんですけど)、それが設定出来なかったっていうか見つけられなくて、決めてもないしそれで対応が遅れた。僕らが広島から神戸に入ったのが、3日目の夜だったんです。3日目の夜ってことはもう72時間過ぎて、72時間ってというのは生存確率がそれを境に生存率が非常に低くなる。本格的な救助活動は4日目になってしまいます。それから、着いたけれど市と調整がほとんど出来ない。なぜ出来なかったか。市の対策本部が出来てないというか出来てるけど人がいない。関係機関との連携も出来ない、警察とか消防とも調整が出来ない。それから行政の意識が縦割り。それから職員の意識が平時と同じ意識だったんです。要は対策本部、司令塔ですよ。行政の司令塔が機能していない。体制が不備だっていうんで訓練もしてないっていう。なぜこういうふうになったのか。結局、神戸では地震が起こらないっていうそういうCMが当時あった。発生確率が0%~1%にも満たないくらいだったんです。だから神戸には絶対地震がない。自信じゃなくて地震がない。

だから神戸ではもう地震が起きるっていうリスクを考えていなかったから、まったくの準備不足。これが全ての原因ですよ。何も準備してないのは、起きたら出来るかという出来ませんよ。訓練もやってないということで。そう思うでしょ。素人でもそう思うよね。

私が岩手県庁に入ったときに、どういうことを準備していたかという、オペレーションルームとか対策本部を拡充したり、ようするに司令塔がちゃんと出来ないと、行政サービスが出来ないと、県民とか市民が困るわけだから、それを機能充実させようということで訓練を徹底してやりました。あと、自衛隊が一番、災害起きたときに、マンパワーが今の日本では一番たよりになる存在なので、その司令部を県庁の中に入れちゃった。そういう準備をしました。それから各市町村に自衛隊の活動するための拠点というか地域を設定した。そこに展開訓練までやってたんです。これは何が教訓、阪神淡路の時、広島からその日のうちに入れたんだけど拠点が決まらない、なかに入らなかった。その悔しい思いがあったので、事前に決めようってこういうことです。あといろんなことが想定される。例えば道路が遮断される、病院が使えなくなる、あるいはヘリコプターがどんどん来るとか、いろんなことが想定されて、それをできるように訓練を徹底してやった。例えば、広域医療搬送って分かりますか。広域医療搬送。これは自分の県の病院だけでは、もう患者さんを対処出来ないで県外に運ぶということを広域医療搬送というんです。

それは日本でいうと、空港は国土交通省が管理してる。飛行機は緊急のものは防衛省、受け入れ病院は厚生労働省がやっています。だから本来これは国でやらなきゃいけない。けどほとんどやってない。やったことがない。岩手県で、こういうことをやったんです。こういう準備するための危機管理のプロセスをちょっと話すと、まず危機管理の目的、何から何を守るのか。私が岩手にいたときには、地震、しかも津波から人命を守る。ようするに人の命を守る。というそういう目標をたてた。その津波が発生したら、どういう状況になるのか。何が問題になるのか。そういうイメージを作るわけです。それをクリアするためにはどうし



たらいいか。というふうなことで、それを助けるための資源はどれだけあるのか。ということ。をまずイメージして、その体勢を整える。平時とは違うような体勢をとらないとできない。あと対応方針、いわゆる戦略を作成をして、そのための実践的な訓練をやっておく、これが危機管理の準備段階のプロセスです。

こういうことをやってましたけど、東日本大震災が発生したら、もうこういう状況ですよ。予想をはるかに超える被害がきました。6000人近く亡くなりました。情報不足で対策本部活動もなかなか意思決定ができないというような状況が続きました。縦割り行政で。人命救助にも困難を極めた。孤立地域が、私のところに報告があっただけで196か所。だけど報告されなかった場所も2倍とか3倍くらいあったと思います。しかもその孤立した人を救出できるかといったらヘリコプター23基しかなかったんですよ。岩手県は南北189kmあります。それを23基しかなかったヘリコプターで、一人ずつこうやってピックアップは物理的に不可能。そういうようなことがありました。それから避難行路も多くの方が犠牲になりました。やっぱり避難意識が低かったというそういう反省もあります。あんな準備してもやっぱりこういう事態がありました。だけど準備してなかったらもっと被害が出てたんじゃないかなと今になって思います。やらなきゃいけないこといっぱいあるんですけど、やっぱり危機管理に携わっている人はできる精一杯のことをやんなきゃいけない。そういうことだと思います。

これは県庁においた自衛隊の司令部ですね。それから各市町村に活動拠点、これ事前に決めておいたので電話が通じなくても自然にその辺入っていきけるようにした。これが宮古これが遠野です。こういうのを作っておかなかったらもっと救助活動が遅れたというふうに思っています。これはさっき言った広域医療搬送。花巻飛行場から。これ全国から集まったDマット。Dマットって知ってますか。災害医療チームです。ようするに災害時にお医者さんと看護師さんのチームが現場に入って行って、救助しようというチームです。全国から。リヤカー。これは消防車がいつもいるところをそれ全部出してもらって、ここにICUというかそこで安定化させて自衛隊の輸送機にのせて北海道とか東京とかに運んでいく。これも訓練やってなかったら多分出来なかった。事前に訓練やってたからこれが出来た、こういう風だと思います。東日本大震災に対応して、私が指揮をして何が教訓だったかっていうと、昔からいうように備えあれば憂いなしっていうさっきいった事前準備が非常に大事ですよっていうことです。

さっきも言いましたが、どういう危機リスクがあって、それがおきたらどういうふうになるかって具体的にイメージアップするというのがまず最初。あとイメージアップしたら、事前に対処方法を準備する。あとその実践にむけて訓練すること。これが備えるということ。ここまではやらないとだめ。あとおきたらどうするか。あとはリーダーの決断と実行です。災害になったらトップダウン、これをやらないとやっぱり動かない。みんな待ってるんですけど。だって誰も分からないんだから。状況が不明な時にトップは、それは正しいかど

うかよりも「とにかくこうやれ」、というふうに決めないと動かないということです。状況不明なかで、ようするに情報が入らなくても意思決定しなきゃいけない。だって災害そうでしょ。情報は入らないけど確実に助けを求める人がいるわけだから。それでは情報入らないからって何もしないわけにいかないです。だからそういう決断というか意思決定をしなきゃいけない。

それと、いろんな救助に関わる組織がいっぱいあります。それをフル稼働して対応する。自分一人では絶対できない。じゃあ、フル稼働して対応するためにはどうするか。やっぱり普段からの顔の見えるおつきあいとか、調整とかそういうことが非常に大事なんです。これは危機管理も安全保障も一緒のことなんです。東日本大震災を指揮して、そういうことを感じました。

ということで、ちょうど時間になりましたのでこれで終わりたいと思います。

